

科目名	日本文学（中世）					単位	2.0
担当教員	中條 敦仁						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	2416

●授業のテーマ

「無常」をキーワードに動乱の時代を考える。

●到達目標

1. 「中世」という時代がどういう時代であったかが理解できる。
2. 作品から、当時の人々の生活やものの考え方が理解できる。
3. 課題や報告書を作成し、期日までに提出することができる。

●学習内容(授業概要)

貴族化した平氏と武士の魂を忘れなかった源氏。中世は両氏の戦いから始まる。結果、源氏が勝利し以後徳川十五代将軍慶喜が大政を奉還するまで、武士の世の中が続く。また、中世は、動乱・天災の不安から逃れようとした隠者の時代でもある。そこで、本講義では、「無常」をキーワードに『平家物語』『徒然草』『方丈記』の一部を読み、貴族から武士への転換の様子、当時の人々の状況、ものの考え方、時代背景を知ることが講義の主体とする。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 中世という時代とは、「無常」とは。
2. 軍物語とは
3. 軍物語Ⅰ—平家物語を読む①—
4. 軍物語Ⅱ—平家物語を読む②—
5. 軍物語Ⅲ—平家物語を読む③—
6. 「貴族化した武士」と「戦う武士」とは何が違うのか
7. 随筆とは、隠者とは。
8. 随筆Ⅰ—方丈記を読む①—
9. 随筆Ⅱ—方丈記を読む②—
10. 随筆Ⅲ—方丈記を読む③—
11. 随筆Ⅳ—徒然草を読む①—
12. 随筆Ⅴ—徒然草を読む②—
13. 随筆Ⅵ—徒然草を読む③—
14. 隠者は、都会を捨てて何をしようとしたのか
15. 軍物語・随筆からみた中世とは

●準備学習・事後学習の内容

準備学習：授業計画を見て、次講義のテーマについて各々に下調べをしておく。事前課題が出された場合には、次講義までに課題をおこなっておく。

事後学習：講義後「講義内容要旨」と「自身の感想・意見」を報告書にまとめる。

●成績評価方法・基準

講義内に課す報告書の内容(各講義内容理解の観点)=40%、最終講義時の課題(講義内容を踏まえた思考力・表現力の観点)=60%をもって評価する。

●テキスト(必携)

必要に応じて資料配布をおこなう

●参考文献/その他

高等学校時に使用していた国語便覧や文学史のテキストがあれば、講義内容理解の助けとなる。

●履修上の注意

各々に興味と関心を持ち、文学作品を読み、中世という時代について真剣に考えてほしい。